

大田市の「教育の魅力化」でめざすもの

ふるさとを愛し、持続可能なおおだを創る、心豊かな人づくり

「教育の魅力化」の目的

大田市がめざす人材の育成に向け、地域総ぐるみで0歳から18歳までの育ちに関わり、切れ目のない教育活動を推進するために、学校・家庭・地域・行政の連携を図りながら、魅力的な教育環境の整備及び支援の充実を図ります。

「教育の魅力化」を進めるにあたって

◆ 大田市は・・・

世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」を有する本市は、ユネスコの精神に基づき、「一人一人の人権が尊重される、心豊かな共生社会」の実現を目指しています。平成28年には、「ふるさとを誇り、大田と世界の未来を拓く」を基本理念とした「大田市教育ビジョン基本構想」が策定し、「生き抜く力を育てる」「あるものを活かす」「地域を支え、創る」を基本方針として取組を進めています。

学校や地域では、先人から受け継いだ、歴史・自然・文化などの大田市の宝を豊かな教育資源として活かしたふるさと教育が推進され、子どもたちのふるさとへの愛着や誇りにつながる貴重な学びとなっています。

◆ 大田市が抱える課題は・・・

大田市は進行する人口減少による児童生徒の減少、少子高齢化、市内県立高等学校への進学率の低下などの状況から、「このままでは持続可能な大田市が創れない」という深刻な地域課題に直面しています。未来に向かって、持続可能なおおだを創っていくためには、子どもも大人もふるさとに誇りや関心をもち、関わっていこうとする気持ちを育んでいくことが大切です。

子どもたちにとって、魅力的な大人との出会いや関わり、学校での学びを地域で実際に試しながら自分の答えを見つけ出していく経験は、これからの時代に必要な主体性や協働性を高め、生き抜く力を育みます。また、大人も子どもたちとの関わりや学びの協働を通して、ふるさとへの思いを新たに、地域の様々な物事を次世代への継承していく意欲を高めたり、主体的に地域を支え、創っていくという態度を育んだりすることにつながります。そして、これらの取組が、子どもも大人も豊かな学びや健やかな成長となり、地域の活力につながっていくことを期待しています。

◆ いざ、「教育の魅力化」推進へ・・・

大田市では、0歳から18歳までの子どもの育ちや学びの充実を図ることはもとより、学校・家庭・地域・行政が手を携えて、地域総がかりで学びを支え、子どもたちが地域の大人との関わりの中で育つ、教育環境の整備及び支援の充実を図る「おおだの教育魅力化」を推進していきます。そして、「かかわる」「ふみだす」「はぐくむ」をキーワードに、未来志向の教育の視点を入れて、「幼児教育・学校教育の魅力化」「地域の魅力化」に取り組みます。

かかわる

一人一人が自分のこととして考え、多くの人と関わり、対話し、だれもが主体性をもって取り組もう。

ふみだす

新しい発想やチャレンジ精神をもって、だれもが一步踏み出し、自分や地域・世界の未来を創造しよう。

はぐくむ

ふるさとを愛する気持ちを力に、未来に向かって、みんなで共に歩む人づくりに取り組もう。